

2 結果の詳細

(1) 教科に関する調査

① 小学校国語

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

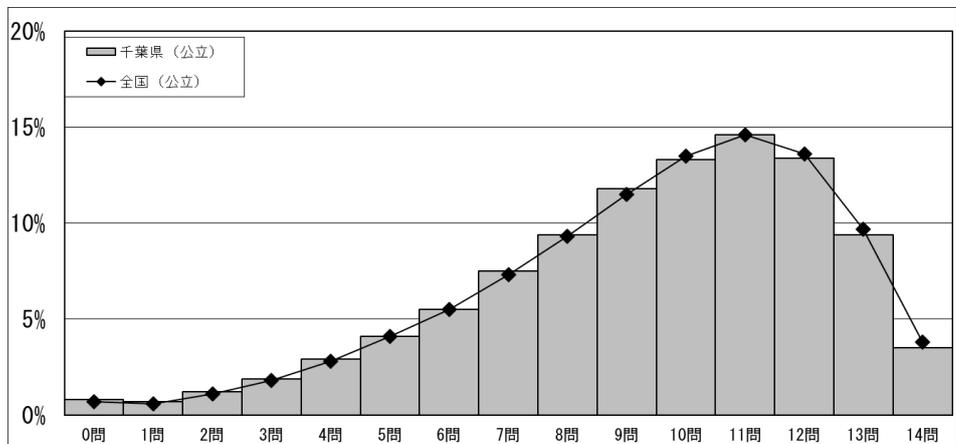
対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象児童数	千葉県（公立）	全国（公立）
	750	18,618		48,041	964,177

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県（公立）	全国（公立）	
全体			14	▼67	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	▼70.4	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	▼62.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	72.8	72.6
		B 書くこと	1	▼24.0	26.7
		C 読むこと	3	71.3	71.2
評価の観点	知識・技能	7	▼68.2	68.9	
	思考・判断・表現	7	▼65.2	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	▼73.4	73.6	
	短答式	2	▼61.2	62.7	
	記述式	3	▼50.1	51.1	

イ 正答数の分布

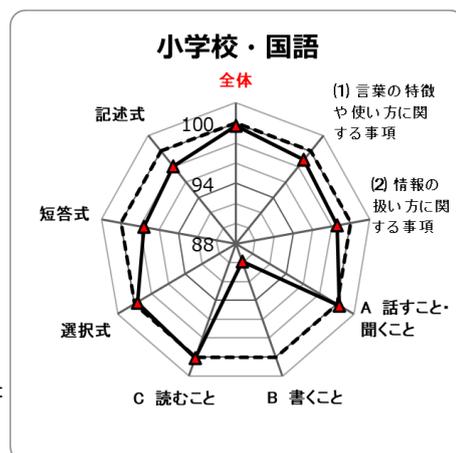
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	48,041	9.3 / 14	67	10.0	3.0
全国（公立）	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

横軸：正答数
縦軸：児童の割合



ウ 指数

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。



小学校・国語		
	全体	指数
領域	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	98.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	98.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
	A 話すこと・聞くこと	100.3
	B 書くこと	89.9
問題形式	C 読むこと	100.1
	選択式	99.7
	短答式	97.6
	記述式	98.0

エ 各設問の結果

※ : 特に課題となる設問

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと													
1一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		5・6 ア					○				○			63.2	64.7	-1.5	2.3	1.8	0.5
1二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 エ		○			○			24.0	26.7	-2.7	8.1	7.1	1.0	
1三 (1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる		5・6 エ					○			○			50.7	52.8	-2.1	5.3	4.8	0.5	
1三 (1)ウ			5・6 エ					○			○			71.6	72.6	-1.0	7.4	6.7	0.7	
1三 (2)イ	送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる		5・6 ウ					○			○			92.6	93.1	-0.5	1.2	1.0	0.2	
1四	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる		5・6 カ					○			○			80.3	79.8	0.5	2.1	2.0	0.1	
2一	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる						3・4 ウ	○			○			90.4	90.0	0.4	1.4	1.2	0.2	
2二	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6 ウ	○			○			67.8	67.4	0.4	1.6	1.4	0.2	
2三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ					○			○			61.9	62.0	-0.1	1.7	1.6	0.1	
2四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6 オ	○			○			55.8	56.2	-0.4	9.1	8.5	0.6	
3一 (1)	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる						3・4 エ	○			○			73.7	73.6	0.1	3.6	3.7	-0.1	
3一 (2)							3・4 エ	○			○			74.0	74.0	0.0	3.9	4.1	-0.2	
3二	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6 エ	○			○			70.5	70.2	0.3	14.5	14.3	0.2	
3三	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる		5・6 キ					○			○			57.0	57.6	-0.6	8.9	9.5	-0.6	

オ 課題のある設問

2四 (趣旨) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかみる。

(学習指導要領)

[第5学年及び第6学年] 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと オ

四

○ ○ 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
八十字以上、百字以内でまとめること。

※★の活用用紙は下書き用紙で、使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※★の印から書きましょう。とらうで使っていて、続けて書きましょう。

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくらう！

運動には、筋力や持久力を高めるほかに、病気の抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちりがフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腕立てなどの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休みの時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくと効果的です。

主に持久力を高める運動の例

軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ)

主に筋力を高める運動の例

腹筋運動 腕立てふせ

【資料1】運動について書かれた本のページ

相田さんの考え

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をするのは健康にいいことだからだ。

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができることを考えてまとめたことになりました。次は、「相田さんの考え」と、相田さんが知りたいことを調べるために進んだ「資料1」「資料2」です。これらをよく読んで、おたの質問に答えましょう。

全国と千葉県との比較

正答率 (%)		無解答率 (%)	
全国	56.2	全国	8.5
千葉県	55.8	千葉県	9.1
自校		自校	

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることで、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものばかり食べると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーの源になります。肉や卵などは、主に体をつくるものになります。魚内がたっぷり、けが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるものになり、病気にかかりにくくなります。

主にエネルギーのもになる

米、パン、バターなど

主に体をつくるものになる

肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるものになる

野菜、果物など

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

<正答の条件> 次の条件を満たして解答している。

- ① 資料を読んで分かったことについて、以下のことを書いている。
 - a 運動について分かったこと
 - b 食事について分かったこと
- ② 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書いている。
- ③ 80字以上、100字以内で書いている。

	解 答 類 型	反 応 率 (%)
5	条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの (条件③を満たしているかどうかは不問とする。)	全 国 12.1 千 葉 県 11.0 自 校 ()

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるには

複数の本や資料を読んで分かったことを整理したり、分かったことの中から既有的知識や体験などに結び付くものを考えたりしながら、自分の考えをまとめるようにすることが大切である。

(1) 教科に関する調査

② 中学校国語

ア 平均正答率

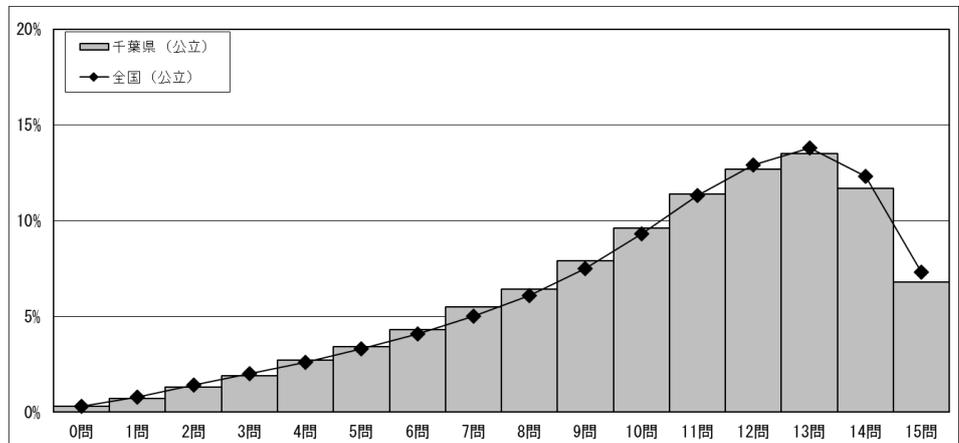
▼：全国の平均正答率を下回るもの

対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	368	9,336		44,879	892,738

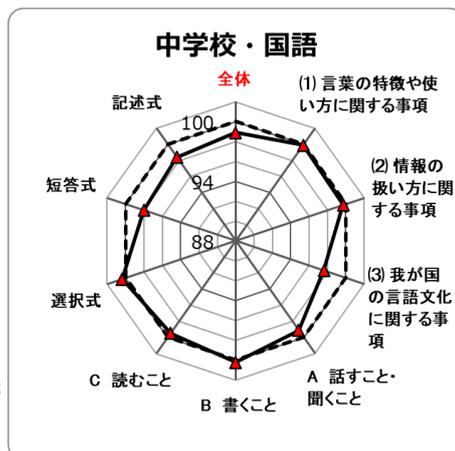
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体			▼69	69.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	▼67.4	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	▼63.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	▼72.9	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	▼81.5	82.2
		B 書くこと	63.3	63.2
		C 読むこと	▼63.4	63.7
評価の観点	知識・技能	7	▼68.6	69.4
	思考・判断・表現	9	▼69.4	69.7
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	7	73.4	73.1
	短答式	4	▼64.3	65.6
	記述式	4	▼66.9	68.0

イ 正答数の分布

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,879	10.4 / 15	69	11.0	3.3
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4



ウ 指数



※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。

中学校・国語		
	全体	98.9
領域	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	99.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	99.7
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	97.6
	A 話すこと・聞くこと	99.1
	B 書くこと	100.2
	C 読むこと	99.5
問題形式	選択式	100.4
	短答式	98.0
	記述式	98.4

エ 各設問の結果

※ : 特に課題となる設問

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
		(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと												
1一	目的や場面にに応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア				○		○		87.5	87.5	0.0	0.2	0.1	0.1	
1二	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア						○		○		64.4	65.1	-0.7	0.2	0.2	0.0	
1三	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ				○		○		75.8	76.6	-0.8	0.3	0.2	0.1	
1四	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ				○		○		81.1	82.5	-1.4	12.0	10.8	1.2	
2一	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ							○		○		92.4	91.1	1.3	0.2	0.2	0.0	
2二	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる							2エ		○	○		63.4	63.0	0.4	0.5	0.4	0.1	
2三	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる							1ア		○	○		76.1	74.2	1.9	0.3	0.3	0.0	
2四	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			2エ				2オ	○	○	○		65.9	67.5	-1.6	4.0	3.9	0.1	
3一	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる							1エ		○	○		54.0	54.3	-0.3	0.6	0.6	0.0	
3二	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ							○		○		42.3	43.9	-1.6	11.6	10.7	0.9	
3三	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア						○		○		62.1	61.8	0.3	2.4	2.1	0.3	
3四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる							1ウ		○	○		72.5	72.1	0.4	10.4	10.2	0.2	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる			1ア					○		○		79.6	82.5	-2.9	3.7	3.6	0.1	
4二	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる			2イ					○		○		73.2	74.1	-0.9	4.8	4.8	0.0	
4三	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる							1エ		○	○		48.3	50.0	-1.7	21.9	20.7	1.2	

オ 課題のある設問

3-1 (趣旨) 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

(学習指導要領) [第1学年] 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと エ

正答率 (%)	
全国	54.3
千葉県	54.0
自校	

正答
4

4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。

3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。

2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。

1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。

「山田さんは、「判じ絵」に興味をもったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

「判じ絵」について

山田 光一

- はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。
- 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。
- 調査結果
■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じ絵」のこと、つまり、知っていることをもとに「おしるって考える」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぜなぜクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。
【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。



【図2】スズメ

【図3】は、

【図3】

3 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

解答類型		反応率 (%)
2	2と解答しているもの 詳しく調べることにした理由をとらえられておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を理解していない。	全国 12.5 千葉県 12.1 自校 ()
3	3と解答しているもの 「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を理解していない。	全国 28.9 千葉県 29.4 自校 ()

読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整えるには

- ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めさせる。
- ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解を深めさせる。
- ・推敲の前後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明させる。
- ・推敲したことで、伝えようとするものが表現されているか読み返させる。

オ 課題のある設問

4三 (趣旨) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

(学習指導要領) [第1学年] 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと エ

全国と千葉県との比較

正答率 (%)	
全 国	50.0
千葉県	48.3
自 校	
無解答率 (%)	
全 国	20.7
千葉県	21.9
自 校	

(正答例1)
「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

(正答例2)
「手慣れた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

<正答の条件> 次の条件を満たして解答している。

- ① 【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて書いている。
- ② ①について、どのように工夫されていると考えられるかを書いている。

解答類型	反応率 (%)
2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの (例1) 「竹取の翁」を「竹取りじいさん」と表現している。 (例2) 「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」と書いている。 取り上げた表現がどのように工夫されているか書かれていない。	全 国 7.5 千葉県 7.2 自 校 ()
3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの (例1) 学校図書館で見付けた「竹取物語」の方が、物語らしく面白くなっている。 (例2) 普通の現代語訳よりも分かりやすく書かれているところが工夫だと思う。 具体的な表現を取り上げておらず、根拠を明確にできていない。	全 国 16.4 千葉県 17.0 自 校 ()

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えるには

・古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導する。



- ・古典の現代語訳から、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考えさせる。
- ・古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に関心を持たせる。

(1) 教科に関する調査

③小学校算数

ア 平均正答率

▼：全国の平均正答率を下回るもの

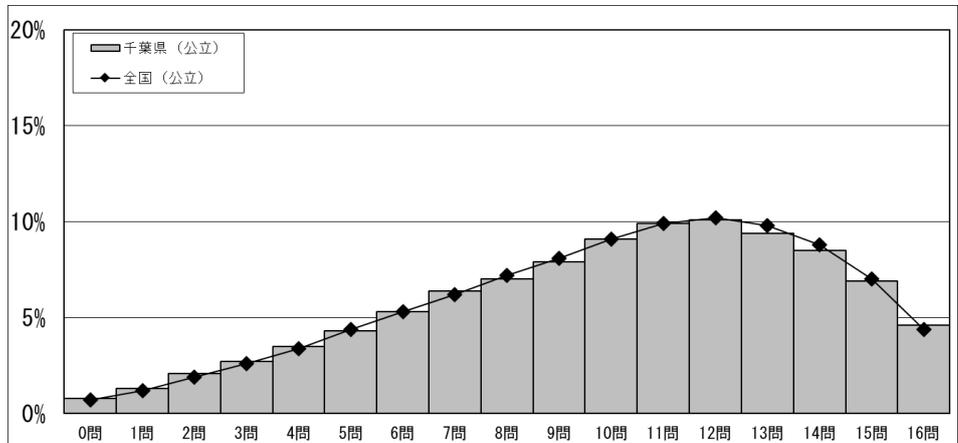
対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象児童数	千葉県（公立）	全国（公立）
	750	18,615		48,041	964,350

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体			▼62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	▼66.9	67.3
	B 図形	4	▼47.4	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	▼70.7	70.9
	D データの活用	3	▼65.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	▼66.8	67.2
	思考・判断・表現	7	▼56.0	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	▼57.2	57.7
	短答式	7	▼74.4	74.7
	記述式	4	▼46.7	47.3

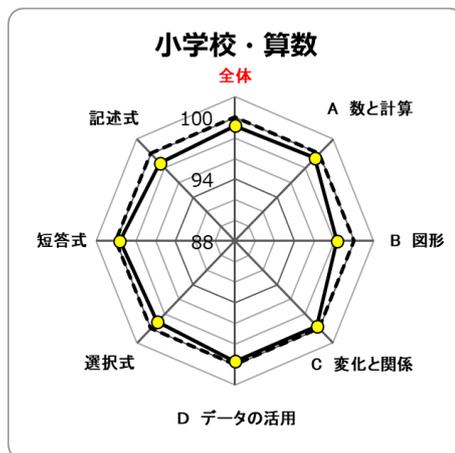
イ 正答数の分布

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	48,041	9.9 / 16	62	10.0	3.8
全国（公立）	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

横軸：正答数
縦軸：児童の割合



ウ 指数



小学校・算数		
領域	全体	99.2
	A 数と計算	99.4
	B 図形	98.3
	C 測定	
	C 変化と関係	99.7
問題形式	D データの活用	99.7
	選択式	99.1
	短答式	99.6
	記述式	98.7

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。

エ 各設問の結果

※ : 特に課題となる設問

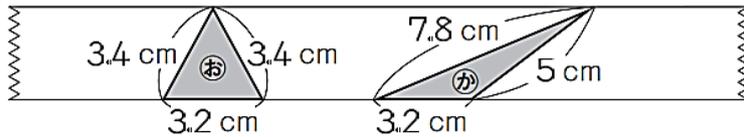
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1 (1)	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)		○			○		93.6	93.5	0.1	0.8	0.8	0.0	
1 (2)	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5 (1) 4 (7)		○			○		88.3	88.5	-0.2	1.0	1.0	0.0	
1 (3)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5 (1) 4 (7) 5 (2) 4 (7)		○			○		55.2	55.5	-0.3	3.4	3.4	0.0	
1 (4)	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3 (3) 7 (7)					○			○		79.3	80.8	-1.5	1.3	1.2	0.1	
2 (1)	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4 (1) 7 (4)				○			○		58.6	59.8	-1.2	0.8	0.7	0.1	
2 (2)	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2 (1) 7 (4) 4 (1) 7 (7)				○			○		86.2	87.2	-1.0	3.4	2.9	0.5	
2 (3)	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3 (1) 7 (7) 5 (1) 7 (4)				○			○		25.0	24.9	0.1	4.0	3.7	0.3	
2 (4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5 (3) 4 (7)				○			○		19.9	20.8	-0.9	4.4	4.0	0.4	
3 (1)	() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4 (6) 4 (7)					○			○		69.4	70.3	-0.9	1.5	1.4	0.1	
3 (2)	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3 (5) 7 (4) 4 (4) 7 (4) 4 (7) 4 (7)					○			○		56.6	56.7	-0.1	3.9	4.0	-0.1	
3 (3)	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4 (6) 7 (7) 4 (7) 7 (7)					○			○		72.0	72.4	-0.4	2.5	2.5	0.0	
3 (4)	(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3 (4) 4 (7) 4 (3) 7 (7)					○			○		47.7	47.6	0.1	4.1	3.9	0.2	
4 (1)	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5 (3) 7 (4)		○			○		45.8	46.0	-0.2	2.3	2.4	-0.1	
4 (2)	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4 (2) 7 (4)				3 (1) 7 (7)	○			○		76.4	75.7	0.7	4.2	4.3	-0.1	
4 (3)	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3 (1) 7 (4) 4 (3) 7 (7)	○			○		55.0	56.2	-1.2	15.3	13.8	1.5	
4 (4)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)		○			○		64.5	64.6	-0.1	4.5	4.9	-0.4	

オ 課題のある設問

2(4) (趣旨) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

(学習指導要領) [第5学年] B 図形 (3) イ(ア)

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

全国と千葉県との比較

正答率 (%)	
全国	20.8
千葉県	19.9
自校	

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう!

<正答の条件> 番号を 3 と選び、次の①、②を全て書いている。

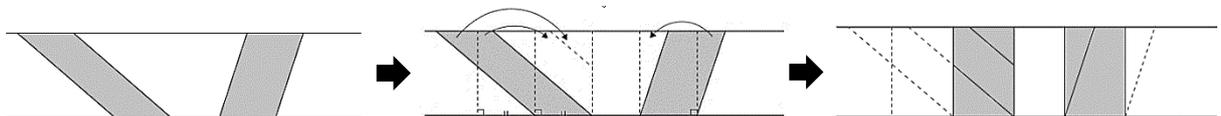
- ① 三角形(お)と三角形(か)の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
- ② 三角形(お)と三角形(か)の高さが等しいことを表す言葉

	解答類型	反応率 (%)
4	3と解答し、解答類型1～3以外の解答 二つの三角形の面積が等しいと判断しているが、わけを正しく記述することができていない。	全国 7.1 千葉県 7.4 自校 ()
23	4と解答し、高さについて具体的な長さが示されていないことを書いているもの 高さについて具体的な長さが示されていないことを記述し、三角形(お)と三角形(か)の面積はこのままでは比べることができないと判断している。	全国 16.8 千葉県 16.1 自校 ()

底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにするには

本設問を用いた指導の工夫

平行な直線ではさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。その際、等積変形で平行四辺形を長方形に帰着させたとき、長方形の縦と横が、元の平行四辺形の底辺と高さに対応することを理解できるようにすることが大切である。



オ 課題のある設問

3(4) (趣旨) (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。

(学習指導要領) [第3学年] A 数と計算(4)イ(ア) [第4学年] A 数と計算(3)ア(ア)

【66÷3の筆算】	【けんたさんの説明】
手順1 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \\ \hline \end{array}$	10を⑩、1を①で表して、60について考えます。
手順2 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \end{array}$	
手順3 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \\ \hline 6 \end{array}$	6について考えます。
手順4 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \\ \hline 6 \\ \hline 6 \end{array}$	
手順5 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \\ \hline 6 \\ \hline 6 \\ \hline 0 \end{array}$	

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のように考えることもできます。

$$\begin{aligned} 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\ &= \underbrace{60 \div 3}_{\text{あ}} + \underbrace{6 \div 3}_{\text{う}} \\ &= \underbrace{20}_{\text{い}} + 2 \\ &= 22 \end{aligned}$$

【66÷3の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \end{array}$$

全国と千葉県との比較

正答率 (%)	
全国	47.6
千葉県	47.7
自校	

正答 い

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

解答類型		反応率 (%)
1	あ と解答しているもの 十の位にたてた「2」を図と関連付けて考えることができず、被除数である66に着目し、 $60 + 6$ の計算をした結果であることから、 あ を選択している。	全国 11.4 千葉県 12.2 自校 ()
3	う と解答しているもの 十の位にたてた「2」を図と関連付けて考えることはできるが、商が2になる式である $6 \div 3$ に着目し、 う を選択している。	全国 29.1 千葉県 28.4 自校 ()

筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする

本設問を用いた指導の工夫

除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられる。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分けて計算するという考え方に基いていることを理解できるようにすることが大切である。

66÷3の筆算	具体物や図	式
手順1 66を3で割る。 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \\ \hline \end{array}$	10を⑩、1を①で表して、⑩6個と①6個を3等分します。 	$66 \div 3 = (60 + 6) \div 3$
手順2 60を3で割る。 $\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \hline 6 \end{array}$	⑩6個を3等分します。 	$60 \div 3 = 20$

60÷3=20のことですね。

(1) 教科に関する調査

④ 中学校数学

ア 平均正答率

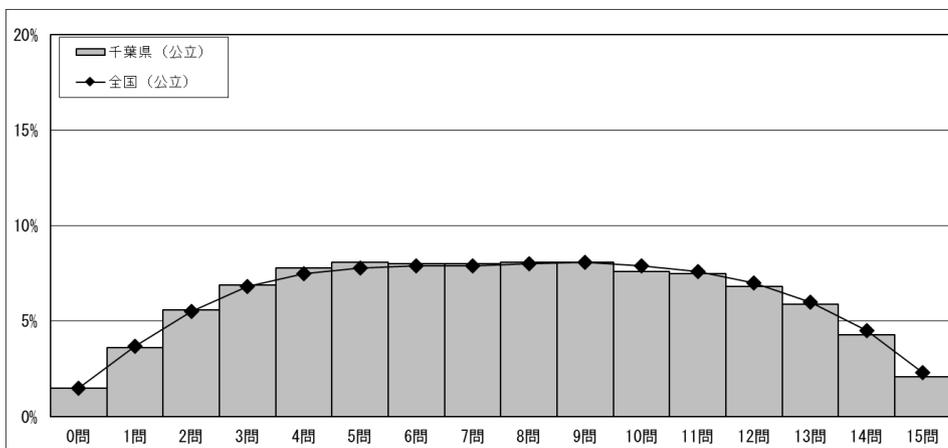
▼：全国の平均正答率を下回るもの

対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	368	9,337		44,888	893,114

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体			51	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	▼62.4	63.0
	B 図形	3	▼33.0	33.2
	C 関数	4	▼50.5	51.2
	D データの活用	3	▼48.3	48.5
評価の観点	知識・技能	10	55.7	55.7
	思考・判断・表現	5	▼40.3	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	45.8	45.3
	短答式	6	▼62.3	62.6
	記述式	5	▼40.3	41.6

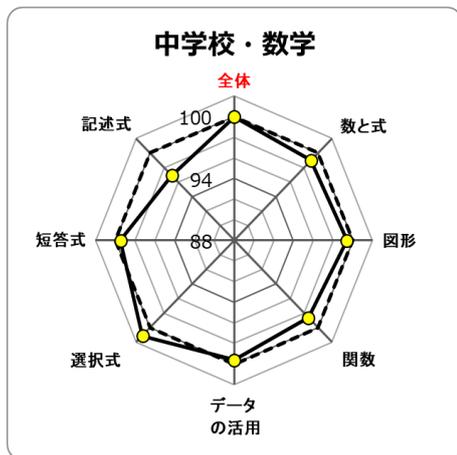
イ 正答数の分布

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,888	7.6 / 15	51	8.0	3.9
全国（公立）	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9



横軸：正答数
縦軸：生徒の割合

ウ 指数



※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。

中学校・数学		
全体	100.0	
領域	数と式	99.0
	図形	99.4
	関数	98.6
	データの活用	99.6
問題形式	選択式	101.1
	短答式	99.5
	記述式	96.9

エ 各設問の結果

※ : 特に課題となる設問

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	$\frac{1}{7}^{(1)}$				○			○		47.3	46.1	1.2	0.1	0.1	0.0	
2	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}^{(1)}$				○			○		78.5	80.5	-2.0	4.6	4.0	0.6	
3	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		$\frac{1}{7}^{(2)}$			○			○		31.4	30.4	1.0	0.9	0.8	0.1	
4	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			$\frac{1}{7}^{(1)}$		○			○		42.1	42.8	-0.7	0.6	0.5	0.1	
5	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				$\frac{1}{7}^{(1)}$	○			○		48.7	46.1	2.6	11.9	11.0	0.9	
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	$\frac{1}{7}^{(1)}$				○			○		89.4	88.9	0.5	2.2	2.4	-0.2	
6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{4}^{(1)}$				○			○		57.0	58.8	-1.8	11.3	10.6	0.7	
6(3)	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{4}^{(1)}$				○			○		40.0	40.9	-0.9	26.7	24.7	2.0	
7(1)	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				$\frac{2}{7}^{(1)}$	○			○		63.1	65.7	-2.6	6.0	5.6	0.4	
7(2)	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				$\frac{2}{4}^{(1)}$	○			○		33.2	33.6	-0.4	25.0	22.8	2.2	
8(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			$\frac{2}{4}^{(1)}$		○			○		57.4	57.5	-0.1	9.1	8.6	0.5	
8(2)	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			$\frac{2}{7}^{(1)}$		○			○		62.3	61.7	0.6	1.1	1.1	0.0	
8(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			$\frac{2}{4}^{(1)}$		○			○		40.4	42.8	-2.4	15.6	13.2	2.4	
9(1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			$\frac{2}{4}^{(1)}$		○			○		31.1	32.1	-1.0	26.1	24.7	1.4	
9(2)	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}^{(2)}$				○			○		36.5	37.0	-0.5	15.3	14.2	1.1	

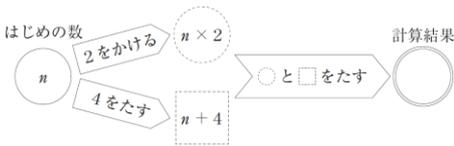
オ 課題のある設問

6(3) (趣旨) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明することができるかどうかをみる。

(学習指導要領) [第2学年] A 数と式 (I) イ (イ)

夏希さんの予想

「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。
計算結果は、
 $n \times 2 + (n + 4)$
 $= 2n + n + 4$
 $= 3n + 4$

全国と千葉県との比較

正答率 (%)	
全国	40.9
千葉県	40.0
自校	
無解答率 (%)	
全国	24.7
千葉県	26.7
自校	

出題の内容

はじめの数に何をかけて何をたせば、計算結果がいつでも4の倍数になるか予想する。

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

<正答の条件> 「○○ならば、◇◇になる。」という形で、次の(a)(b)について記述しているもの
(a)○○が、「はじめの数にける数が3、たす数が4」である。
(題意を満たせば、(a)以外の具体的な数あるいは文字式で記述してもよい。)
(b)◇◇が、「計算結果はいつでも4の倍数」である。

	解答類型	反応率 (%)
10	解答類型1~9以外で、前提(○○)について、はじめの数にける数として4の倍数を記述しているもの(前提(○○)について、たす数の記載がないものや、(b)についての記述がないものを含む。)	全国 8.7 千葉県 8.5 自校 ()
11	解答類型10以外で、前提(○○)について、はじめの数にける数又はたす数のどちらか一方のみを記述しているもの((b)についての記述がないものを含む。)	全国 5.3 千葉県 5.1 自校 ()
99	解答類型1~11以外の解答 (例1) はじめの数にける数が3、たす数が1ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる。 (例2) はじめの数にける数が1、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる。	全国 19.9 千葉県 19.1 自校 ()

問題解決の過程を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするには

本設問を用いた指導の工夫

具体的な数や文字式を用いて予想した事柄が成り立つかどうかを調べる活動を設定することが考えられる。計算結果が4の倍数になるためにはどうしたらよいか見通しをもち、それまでの問題解決の過程や結果を振り返って考察し表現する活動を設定することが考えられる。

$3n + 4$ が $4n + 4$ になれば、 $4(n + 1)$ にできるから、 $4 \times (\text{整数})$ の形になるね。

$3n + 4$ の $3n$ を $4n$ に変えるためにはどうしたらいいかな。



$3n + 4$ の4はたす数のことだね。この数は変えなくていいね。

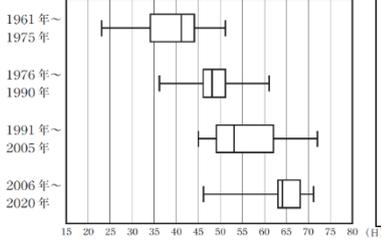
$2n + (n + 4)$ の $2n$ の部分を $3n$ に変えると、 $4n + 4$ になるから、かける数2を3に変えればいいね。

オ 課題のある設問

7(2) (趣旨) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る。

(学習指導要領) [第2学年] D データの活用 (I) イ (ア)

(9/30 から) 黄葉日までの経過日数



出題の内容

「2006年～2020年の黄葉日は1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する

全国と千葉県との比較

	正答率 (%)	無解答率 (%)
全国	33.6	22.8
千葉県	33.2	25.0
自校		

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう！

- <正答の条件> 次の(a)、(b)、(c)のいずれかと、(d)について記述しているもの
- (a) 1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあること
 - (b) 1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいこと
 - (c) 1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいこと
 - (d) 2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあること

解答類型	反応率 (%)
8 箱ひげ図の箱やひげの横の長さについて記述しているもの((d)についての記述がないものを含む) (例) 1991年～2005年の箱の長さよりも2006年～2020年の箱の長さの方が短く、データが集まっているから	全国 10.2 千葉県 10.1 自校 ()
9 解答類型1～8以外で、箱ひげ図から読み取れることを記述しているもの((d)についての記述がないものを含む) (例) 1991年～2005年の最小値よりも2006年～2020年の最小値の方が大きいから	全国 14.3 千葉県 13.2 自校 ()
99 解答類型1～10以外の解答 (例1) 1991年～2005年の黄葉日が終わるころに2006年～2020年の黄葉日が始まっているから (例2) 1991年～2005年の方がスタートが早く、2006年～2020年の方は後からスタートしているから	全国 15.8 千葉県 15.2 自校 ()

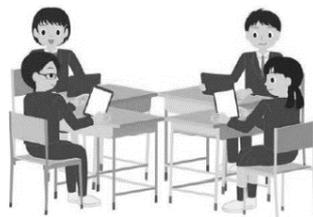
データの分布の傾向を読み取り、自分の考えを数学的に説明できるようになるには

本設問を用いた指導の工夫

主張が正しいと判断できる理由について、数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが考えられる。また、複数の箱ひげ図を比較し比較した際に、箱の位置が右側にあるほど、黄葉日が遅くなっている傾向にあると捉えられるようにすることも大切である。

箱ひげ図の箱の中には中央値を中心とした全体の約半数のデータが含まれているよ。

箱が完全に右側にあるということは、中央値を中心とした全体の約半数以上のデータが全て遅くなっているということだね。



2006年～2020年の箱は、1991年～2005年の箱より完全に右側にあることが根拠になりそうだね。

箱が完全に右側にあるということは、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいことから読み取れるね。

(1) 教科に関する調査

⑤ 中学校英語

ア 平均正答率

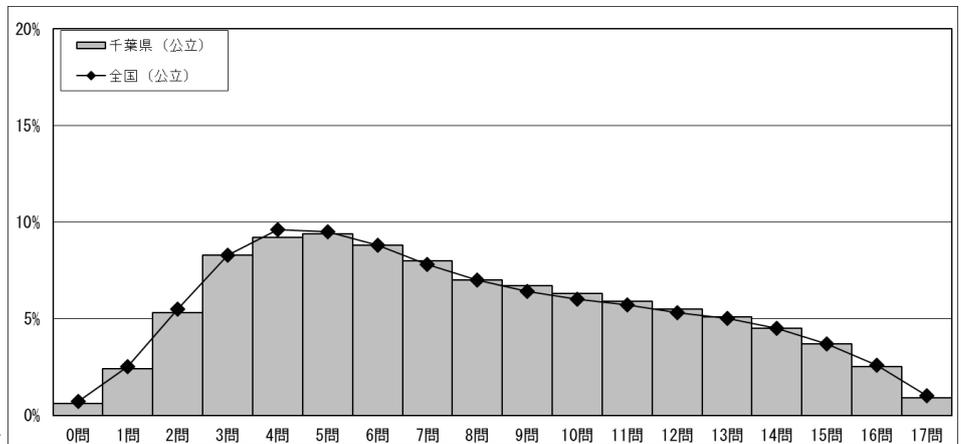
▼：全国の平均正答率を下回るもの

対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	368	9,335		44,925	893,528

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県（公立）	全国（公立）
全体			46	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	59.4	58.4
	(2) 読むこと	6	▼51.1	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0		
	(4) 話すこと [発表]	0		
	(5) 書くこと	5	▼23.3	23.4
評価の観点	知識・技能	9	51.8	51.5
	思考・判断・表現	8	39.1	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	12	55.2	54.8
	短答式	3	▼30.0	30.1
	記述式	2	▼13.3	13.5

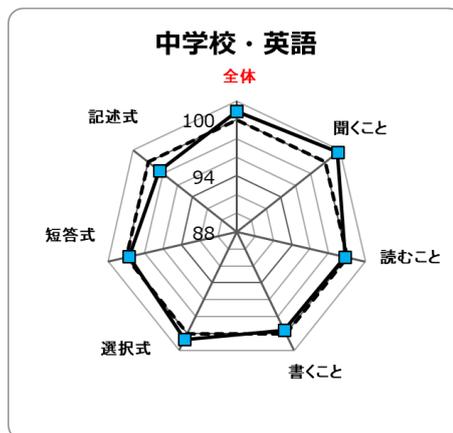
イ 正答数の分布

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,925	7.8 / 17	46	7.0	4.1
全国（公立）	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2



横軸：正答数
縦軸：生徒の割合

ウ 指数



中学校・英語		
領域	全体	100.9
	聞くこと	101.7
	読むこと	99.8
	話すこと [やりとり]	
	話すこと [発表]	
	書くこと	99.6
問題形式	選択式	100.7
	短答式	99.7
	記述式	98.5

※右の表は、全国を100としたときの指数で表している。

エ 各設問の結果

※ : 特に課題となる設問

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと 「やり取り」	(4) 話すこと 「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1 (1)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			78.6	79.0	-0.4	0.1	0.1	0.0
1 (2)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			65.6	64.4	1.2	0.2	0.2	0.0
1 (3)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			51.4	49.8	1.6	0.2	0.2	0.0
2	日常的话题について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			63.1	61.1	2.0	0.2	0.2	0.0
3	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			42.2	41.2	1.0	0.2	0.2	0.0
4	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			55.4	54.8	0.6	0.5	0.4	0.1
5 (1)	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			57.3	56.0	1.3	0.3	0.3	0.0
5 (2)	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			64.1	64.5	-0.4	0.3	0.3	0.0
6	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア				○			○			35.4	35.9	-0.5	0.3	0.3	0.0
7 (1)	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			59.5	59.8	-0.3	0.3	0.3	0.0
7 (2)	日常的话题について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ				○			○			34.9	34.7	0.2	0.8	0.7	0.1
8 (1)	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ				○			○			55.5	56.1	-0.6	0.9	0.8	0.1
8 (2)	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ	○			○			19.6	19.5	0.1	33.1	29.3	3.8
9 (1) ①	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			40.8	40.4	0.4	7.0	6.6	0.4
9 (1) ②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			21.0	20.9	0.1	11.5	10.9	0.6
9 (2)	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○			28.0	29.0	-1.0	26.4	24.5	1.9
10	日常的话题について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ	○			○			7.0	7.4	-0.4	23.8	21.4	2.4

オ 課題のある設問

6 (趣旨) 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

(学習指導要領) 読むこと ア

6 次の英文は、友達のデイビッド (David) があなたに送ったメールです。メールを読んで、デイビッドにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までのの中から1つ選びなさい。

□ □ ×

Events on the Weekend

Date April 13, 2023 18:45

From David

Hello. How are you?
I'm excited to stay at your house this weekend.

I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.

I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.

I'm looking forward to seeing you soon.

↩

1 Rugby Game



Let's watch together!

Date & Time
Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place
Midori Park

2 Flower Market



You can buy beautiful flowers!

Date & Time
Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place
Hikari Garden

3 City Orchestra



You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

正答 3

出題の内容

自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取ることができるかどうかを把握するために、友達からのメールを読んで、相手が示した条件に合うイベントを選択する。

全国と千葉県との比較

正答率 (%)	
全国	35.9
千葉県	35.4
自校	

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう!

	解答類型	反応率 (%)
1	1と解答しているもの	全国 14.5 千葉県 14.6 自校 ()
2	2と解答しているもの	全国 13.1 千葉県 12.9 自校 ()
4	4と解答しているもの <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> メールで相手が示した2つの条件(イベントに関する条件と日時に関する条件)のうち、後半に書かれている I have to leave before 4 p.m.という日時に関する条件を読み取ることができていない。 I will have dinner with my family.という情報と“Cook & Eat”というタイトルやイラストとを結び付けてしまったことが要因と考えられる。 </div>	全国 36.1 千葉県 36.8 自校 ()

自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることができるようにするためには

書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で、読み取ることが重要である。

<効果的な言語活動>

広告や予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動

オ 課題のある設問

9(2) (趣旨)「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる。

(学習指導要領) 書くこと ア

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith)宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

全国と千葉県との比較

正答率 (%)		無解答率 (%)	
全国	29.0	全国	24.5
千葉県	28.0	千葉県	26.4
自校		自校	

(正答例1) Can you come to the speech contest?

(正答例2) Could you come to the speech contest?

(正答例3) Will you come to the speech contest, please?

解答類型別に誤答の反応率をみてみましょう!

解答類型	反応率 (%)
<p>4</p> <p>依頼する表現を書いているが、誤りがあるもの</p> <p>(例1) Could you have to come to the speech contest?</p> <p>(例2) Please you have to come to the speech contest?</p> <p>「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を書いているが、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文を書くことに課題がある。</p>	<p>全国 9.2</p> <p>千葉県 8.4</p> <p>自校 ()</p>
<p>5</p> <p>解答類型1~4とは異なり誤りがあるもの</p> <p>(例1) Have you come to the speech contest?</p> <p>(例2) You want to come to the speech contest.</p> <p>依頼する表現以外の疑問文になっているなど、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解して依頼する表現を書くことができていないと考えられる。または、依頼する英文に書き直すという状況を理解できていないと考えられる。</p>	<p>全国 36.7</p> <p>千葉県 36.7</p> <p>自校 ()</p>

言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けることができるようにするためには

言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。

<効果的な言語活動>

教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する活動



「Could you ~?」の方が「Can you ~?」より丁寧な言い方だからだと思います。

そうですね。依頼する相手や状況などによって表現を適切に使分けるとよいですね。Let's make a request to your friends and teachers again.

What did Hana say to Mr. Smith?



She said, "Could you come to listen to my speech?"



When do you use the expression "Could you ~?"



相手に何かして欲しいことを頼むときに使います。

That's right. After that, Mr. Smith asked Hana to do something. What did he say to her?



He said, "Can you come to the English room after school?"



Yes. Both expressions are used to make a request (依頼する). But Hana used "Could you ~?" and Mr. Smith used "Can you ~?". Are there any differences?